

この本をおすすめ！なのは、誰でしょう？？

今回の『先生おすすめ！札大生に読んでほしい本』は、先生が図書館に来館された際にお声がけして、先生が大学時代に感銘を受けた本や、最近読んで面白かった本などを紹介していただき、先生の一押しコメントとともに展示しています。展示スペースの関係上 10 名の先生にご協力いただきました。

是非、手に取ってご覧ください。どの本が誰のおすすめ本なのかわかりますか？答えは展示コーナーで確認してください。

現在、館内 2階開架閲覧室入口にて、



先生おすすめ！ 札大生に 読んでほしい本

をテーマとした展示を開催中です！！

札幌大学の先生に、学生時代に読んで印象に残った本や、札大生に読んでほしい本を紹介してもらいました！



先生って実はこんな本を読んでいるんだ！とか、あの先生のおすすめなら読んでみようかな…なんて思ったら、ぜひ図書館へどうぞ！



悟浄出世

『山月記・李陵』収録 / 中島敦

細田守監督作品『バケモノの子』の元ネタとされる短編小説が私の目下のお気に入り。生きていく上で本当に大事なことって何だろうって、この作品と出会って少しわかった気がした。頭であれこれ考えているうちは、私たち何もわかっていないのかもしれない。映画もイチオシですよ☆



選挙参謀 / 関口哲平

日本でも、18歳になると、投票ができるようになったが、選挙の裏側で、こんなことがおこっていたとはという驚きを感じる一冊。ラストの大どんでん返しにも注目！これを読んだら、あなたも投票にいきたくなるのでは？



フェルマーの最終定理 / サイモン・シン

数学が好きでも嫌いでも、難問に挑む数学者たちの強い気持ちに胸打たれます。数々のドラマを経て、ラストが実に美しい。僕の自慢は、ケン・リベットが途中の証明に気づいたカフェ・ストラーダのTシャツを持っていること！



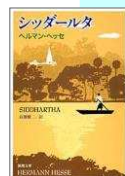
八十日間世界一周 / ジュール・ヴェルヌ

フィリアス・フォッグ氏は、当時開通したばかりのスエズ運河やアメリカ横断鉄道を使えば80日間で世界一周が可能だと賭けをし、自らそれを証明する旅に出ます。でも、ロンドンに帰り着いたのは81日目。ところがどんでん返しが待っていました。1日分短縮するからくりとは？



シッダールタ / ヘルマン・ヘッセ

一人の人間として苦しみながら悟りに至るブッダの姿が浮かび上がる。歴史的人物の人生を題材にした優れた文学作品。翻訳の文章もとても魅力的。



歴史とは何か / E.H.カー

「歴史とは現在と過去の対話」の名言を生んだ名著。やや難解だが、第1章だけでも食らいついてほしい。



希望の名古屋圏は可能か / 塩見治人 他

大都市でも2030年に危機を迎える!?希望学に学び地域の危機を乗り越える知恵を身に付けよう。地域の担い手に定年はない。



戦後日本と現実主義 / 服部龍二

高坂正堯(1934~1996)は、米国ハーバード大学留学後の28歳の時に「国際政治の知の巨人」として論壇に登場し、世論を驚かせた。本書では、現実主義の政治学者、また歴代首相のブレーンとして、戦後日本の政治の在り方と国益について、国際政治の動向に照らし合わせながら提唱し続けた高坂正堯のバックボーンを知ることができる。



ブラウン神父の童心 / G.K.チェスタートン

探偵小説の古典、ブラウン神父譚の第1冊目。収録作「折れた剣」、神父は神学の問答のように謎解きを始める。周囲の自然描写が効果的で、無法なトリックですら戯言の添え物のようだ。また、「飛ぶ星」の終盤、神父が語る長台詞も相手の人間性に賭ける姿勢がどこか切なく、この本の中で最も好きな場面。聖職者が探偵役になるスタイルは数多くあるが、チェスタートンのブラウン神父はそれらの原型であろう。その意味からも押さえておきたい作家と作品である。



閉された言語

・日本語の世界 / 鈴木孝夫

日本語の本質を知るためには、日本の文化、世界の文化を知ることが大切!と気づかされる一冊です。

